

リンゴのハリトオシに対するパラチ オン剤の應用効果

望月正己・田口吟

リンゴの害虫ハリトオシによる被害防止についてパラチオン剤の効果を驗知しようとしホリドルの乳剤及び粉剤について試験した。乳剤については46.6%原液の2000倍液を選び4樹に對して6月26日、7月10日、7月27日の3回に撒布した。この樹は別にダイセーン400倍液の3回撒布も行

われている。また、對稱区として5樹に対してDDT水和剤の200倍液を3回撒布し慣行法区として比較することとした。試験地は魚沢市加積でリンゴ品種は旭である。調査は1樹ごとに予め指定した100個の果実について10日ごとに行つて被撒果率を算出した。その結果は第1表の如くである。

第1表 FOLIDOL乳剤撒布樹に於ける被害果率

試験區別	7月5日	7.15	7.25	8.4	8.14	8.26	平均
FOLIDOL乳剤	2.5	4.5	5.5	3.0	8.0	8.0	5.25
DDT水和剤	39.4	13.6	3.2	10.4	6.0	2.4	12.50

つぎに、粉剤については、リンゴ品種旭を供試して、3樹に對して7月15日、7月25日の2回に撒粉を行つたが、この場合も慣行区として3樹に對するDDT水和剤200倍液2回撒布区を対比せし

めた。こうして、各樹ごとに4本の枝について10日毎に被害果を調査し被害果率を算出した。その結果は第2表の通りである。

第2表 FOLIDOL粉剤使歩樹に於ける被害果率

試験區別	7月25日	8月4日	8月14日	8月26日	平均
FOLIDOL粉剤	7.4	6.9	11.2	11.7	9.30
DDT水和剤	2.9	6.2	3.2	4.1	4.10

従来この害虫に對しては、充分な薬剤防除法が確立されていなかつたのでパラチオン剤を應用してみたのであるが、乳剤について効果を認められ

ただけであつた。撒布時期は、当地に於ては6月中であるように考えられる。

(富山農試 昭28)